四月十日二夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳　月金五拾錢　郵送五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

宗門と結婚哲學

眞繼雲山

佛道の修行を分つて解學と行學とする。解學とは學問としての佛教を研究することである。行學とはその學び得た研究を如實に體驗し修行することである。

解學は廣く各宗に亘りて究むべし、行は專ら一宗を修すべしとは懇切なる先覺の垂示である。

解學のみにて終るならばそれは哲學である、解より信仰は生れて來ない。猶しそれは如何に姙娠學を研究しても結局子供は生れないやうなものである故に信仰は行を以て本とする。

但し解學をヌキにして直ちに行に入るならば後日必ず智眼の乏しきを嘆ずる日があらう。たとへば數々の美人をも見くらべずに、取り急いで結婚したやうなもので子供が出來てから寂味を感ずること無しとも限らぬ現在、日本には佛教だけでも十三宗五十六派の多きを算する。それは千紫萬紅、百花燎亂、色とり〴〵である。美人は一亭主の專有に歸して自他の共有を許されないが、佛教の各宗は選り取り勝手圓融無礙である。解學を修して後は何れとも己れの機に合した一宗に信仰の根抵を置くがよい、それは恰も嫁定めのやうなものである。後は、離緣も出來る如く後に至りて轉宗といふことも出來ぬ限りではないが、人生は短い、成るべく事前に美人を物色し各宗門に參學して後一宗を專修するを得策とする但し既に信仰を確立しその堂奥に入つての後は、もと〳〵佛教とは一つのもの。圓融自在のものでなくてはならぬ白髮老境、人生の終幕に立つて五十年を回顧する時、結婚といひ美人といふとも畢境、天地の攝理に契合したまでのことであつて爺さん婆さんの本質はもと〳〵同一實想であつたと悟るやうに佛教の堂奥は元々一味一相一乘であつて宗門の分派は、結緣引導の方便に過ぎざりしと破顧一笑し得る底のものでなくてはならぬ自宗を顯揚するといふことは衆生濟度の悲願に基くことであるから固より可なりしかし愛染その度を超えて執着に陷るに至りては既に佛の眞際を距ること千萬里である。

世上にては往々、月蓮宗の所へ行つて私は淨土宗ですといふとイヤな顔をする。又眞宗の寺へ行つて私は法華宗ですといふと坊さん眼を三角にして異端見扱ひにするといふが如きは未だ佛の堂奥に入らざること甚しといふべし

閑月先生送別句會

只野閑先生這般高女を辭し故山に歸らる四月九日高月會同人荻野天仙庵に集ふて祖道の宴を開き句會を催ふす席上得意の句作を揮ふて記念に贈る即題互選句左の如し

春の宵

無雜作に湯の客訪ふや春の宵　秀峰
五戸の里火事におひえて春の宵　閑月
微醉の紅燈淡し春の宵　耕影
春宵や薄く刷きたる舟の妻　天仙
湯の宿に三味の音低くし春の宵　曉美女
遠山に野火の明るき春の宵　良亭
春の宵池畔に灯る石燈籠　紅果
銀ぷらの『モダン』姿や春の宵　城山
獨りもの揚屋を覗く春の宵　湖晴
母と出て異性に逢ふや春の宵　秀峰
花影の廓あかるし春の宵　曉美女
旅藝人城下に入るや春の宵　良亭
産博の放送塔や春の宵　閑月
春のよい祇園小唄の五條橋　湖晴
ゆるかに琴の音流る春の宵　城山
凱旋の將士ねぎらふ春の宵　耕影
露地に入る戀の二人や春の宵　天仙

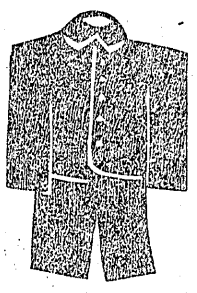
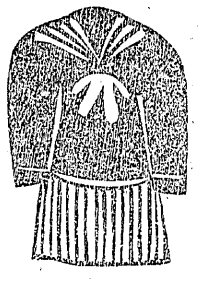
× × × ×

磐城セメント會社特約店
久慶商店
磐城平町五丁目　電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

花環　花籠　蓮華
造花は
▼新らしく安い
▼靈柩自動車御用
平町新川町
橋本屋
電話一六三番

貴金屬　時計及眼鏡類　懷中電燈　キミガヨ電氣　ランプ特約店
高橋時計店
平町搔揶小路

◎期日　來る二十四日　午前九時
◎場所　昭和産業博覽會第一會場
第三回
郡下模型飛行機競技大會
□參加資格何人を問はず參加券不用
□尚其詳細は主催店へ御問合せを願ふ
主催　平町　いづみや玩具店
後援　常磐毎日新聞社
昭和産業博覽會
ダイヤモンド模型飛行機東京研究會



出賣服學通
新學期が近づいてまいりました。
坊チヤマ●嬢チヤマの可愛らしい通學服を色々取揃へました。
◇男兒用
小倉服……0・85ヨリ
同特製……1・70ヨリ
紺サージ……3・40ヨリ
◇女兒用
紺セルセーラー服…2・60ヨリ
綿セルセーラー服…1・10ヨリ
防水マント種々取揃へて御座ひます。
平三電203　ふかや洋服店

◎小兒下痢一切小兒腸胃散◎
平町二丁目　堀藥局　電三二六番

御入學御祝に……◇
正確本位のクローム腕時計をおすゝめ致します
學生特價奉仕品
5・50
6・00
6・50
7・00
7・50
蓄音器部
春の朗らかな夜に家庭平和を斗る蓄音器を……
四月新譜の內（コロンビヤ）
軍事小唄（塹壕の唄　從軍記者の唄）
鐵道歌　鐵道小唄
平町五丁目（電話一九五）
鐵道省御用
金光堂時計店
蓄音器部

昨夜から點燈
松ケ岡公園の美觀
各種會合の日割

昭和産業博覽會は日を遂つて入場者を增しつゝあるが二、三日中には新川端はじめ松ケ岡の櫻も咲き揃ふべく例年通りの雪洞提灯も準備整昨夜から點燈されたので一層賑はひを增し殊に十五日から連日縣下各種會合郡下の會合等が相次ぎ又縣社子鍬倉神社の祭禮も十六七の兩日であり常磐炭礦山神祭も十五日から三日間なのでその人出は名狀し難きものあらうと豫想さる尙明十三日より平町に行はれる各種大會日割は左の如くである

（十三日）郡下統計主任會（十四日）木炭品評會（十五日）平署管內消防檢閱郡下稅務主任會議、木炭品評會（十六日）木炭品評會賞品授與式、稅務主任會議（十七日）縣下產業組合大會、縣社子鍬倉神社宵祭十八日縣社本祭（十九日）縣下自動車協會大會（二十日）郡下衛生主任會議（廿一日）郡下町村會議員大會（廿二日）縣下統計吏員大會（廿三、四日）石城双葉戶籍吏員會（卅日）縣下佛教大會

△第一小學校
尋常科　一、三二四名
高等科　二二〇名
△第二小學校
尋常科　一、二九三名
高等科　二七七名
△第三小學校
男　四一二名
女　四七二名

郡下の教員を打つて一丸に
五月中旬頃に教員會を創設

石城郡下小學校教員の統制上平第一小學校長曾我直治氏の膽煎りで此度教員會が創立されたが創立總會は來る五月中旬平第一小學校に於て開催する豫定であると

消防顧問囑託

石城郡夏井村鵜沼常造志賀廣治の兩氏並に下小川村の佐之吉氏は消防組に永年盡力し縣仲里警察部長より夫々消防顧問に命ぜられた

在學兒童數
平各小學校の

平各小學校本年度在學生は左の如くである

好況時代の……
三分の一に減少
各炭礦の從業員

平署の調査に基く常磐炭礦三月末現在從業員は總計七千二百でこれを大別すれば磐城三千六百六十人入山一千九百七十人古河一千二百人他は外の炭礦となるがこれを五年度に比ぶれば四百名の減である然して好況時代の二万五千人突破を想起すれば全く思ひ半ばに過ぐるものあり三分の一にも滿たないには如何に炭礦界が消沈してゐるかを窺知するに充分である

射擊選手
二名の豫選

本縣獵友聯合會主催の第十一回總會並に射擊大會は本月卅日と其の翌月の二日間白河町に開催される筈であるが同會磐城支部では役員の外に出場二名を派遣する爲め豫選會を開く由尙出場希望者の申込期日は四月廿日迄である

青年幹部
豫算協議

平青年團幹部會は明日午後七時半より平庶民金庫樓上に於て開會決算報告七年度豫算編成及び縣社祭典奉仕に付いて協議をすると

戶籍事務
打合會開く

平區裁判所管內石城双葉兩郡下各町村戶籍吏員よりなる戶籍會では來る廿三、四の兩日平第三小學校に總會を開き戶籍事務の取扱に關する打合せをなすと

豐間信用總會

石城郡豐間村信用組合では來る十七日午前九時より組合長遠藤仙右衛門氏方に春期總會を開會役員の改選及び本年度事業の計畫等に就いて協議を行ふ筈

訓盲院の協議

平町磐城訓盲院評議員會は來る十五日午前十時より訓盲院に於て開き本年度の豫算編成の件を附議すると

優良吏員三名
統計大會で表彰

既報石城郡統計主任會では本月廿二日平第三小學校に開催される縣下統計吏員大會にて表彰さるゝ郡下の優良吏員を選衡中であつたが左記の三氏に決定した

遠藤專（豐間）　赤津榮助（勿來）　志賀勝治（神谷）

豫審移官の
猛運動開始
辯護士會意氣込

相馬區裁判所復活に平辯護士會では過般來相馬郡中村の相馬區裁判所が財政整理の結果廢止される運命になつたのでこれが復活猛運動を起し主務當局に對し陳情中の處この程存置する事に決定したが同辯護士會は更に同區裁判所の豫審事項が從來福島において扱はれてゐたのは不便且遺憾とし右復活に續いて移管の實現を期し九日司法省に對し陳情歎願する所あり一般識者からその成行を重視されてゐる

學務部長來平

本縣末原學務部長は明日零時五十五分着にて來平磐中及磐女を視察する由

募る 二勇士遺族の弔慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ、實に振古未曾有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絕す、古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり、

今や同胞國を擧げて戰に赴かんとする誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、內は國民の士氣を鼓舞し外は國家の威武を宣揚する誠に三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、

名將曰く「吾が皇國も三勇士ありて亡びず」と眞に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり、

然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族發展の尊き犧牲者なり、

吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を餞け以て聊か勇士の靈を慰んとす

愛國の士奮つて賛せられんことを

主唱　阿部政右衛門
後援　常磐毎日新聞社

但し
一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます
二、右弔慰金は平驛前丸ツ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ
三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名 ＝第廿一回分＝

材木町　阿部遠三　同　同久美子
新川町　眞根井セイ　同　同喜久子
同　同久馬　同　同嘉代子
同　同藤馬　白銀町　高橋龜松
同　サイ　同　サク
同　一　同　茂
同　仁　同　ウタ
同　功　同　カツエ
同　菅野友治　同　大原虎三
十五丁目　馬目雄次郎　田町　萩原申八
同　同久二雄　同　同正男
赤井村　鹽谷文雄　同　敏子

博覽會開催と共に 旅客收入增す

平驛の最高收入高調べ 今迄の赤字が全く埋る

乘合や貨物自動車頻繁の影響で平驛に於ける旅客及び貨物の收入は赤字の連續であるが各月別の最高收入高を見ると一月の最高が九百五十四圓、二月は八百八十七圓に低下し

三月に 入つては博覽會の出品物や其他準備で千八十九圓と增加を見たが本月に入つては博覽會の見物に押し寄せる旅客で連日千四五十圓を往來して居るので同驛では既記の如く十六日より臨時列車を運轉する等大馬力を掛ける外そろ〳〵今月末より

各學校 の修學旅行期に入るので四、五兩月は近來にない增收を見るであらうと

新入生の家庭訪問

諸般の調査

平町第一、第二、第三各小學校にては本日より各受持訓導が一齊に本年度新入生の家庭訪問を開始したが調査事項は左記の如くであると

△兒童の氏名△兒童の生年月日△出生地名△出生時の狀態△原籍地及族稱△現住所△保護者氏名△家庭の職業△祖父母の年齡△兄姉の有無△弟妹の有無△傭人の有無△宗教△兒童の遺傳疾患△家庭の環境△家庭にて觀察された兒童の長所及短所△感覺器管の故障△特に教養上の注意△兒童の將來△其他參考事項

歡迎塔下に……案內屯所を設く

平青年團員が交互に出動

平青年團にては本日より驛前昭和產業博覽會歡迎塔下に屯所を設け一般來平者の爲め會場旅館其他名所舊跡を案內する事になつたが各分團の受持日割は左の如くであると

十二日大工町、十三日立町、十四日白銀町、十五日新川町、十六日鍛冶町、十七日田町、十八日南町、十九日鎌田町、二十日六七丁目、二十一日四丁目、二十二日三丁目、二十三日二丁目、二十四日材木町、二十五日一丁目、二十六日才槌小路、二十七日月見町、二十八日紺屋町、二十九日研町、三十日長橋町

調べた處 强か者 空巢泥か

十日午後九時頃石城郡內郷村御厩地內を徘徊する一名の青年を密行中の平署員が怪み本署に引致取調べた處

遺失金が戻る

石城郡下小川村關場の草野勇（七〇）と云ふ老人が昨十一日午後二時頃買物を終へて二丁目地內を通行中現金五十七圓入りの墓口を落し靑くなつて平署に届出た處二丁目の北郷林藏氏が右の墓口を拾つて届出たので急にニコ〳〵顏

同人は石城郡小名濱町生れ當時住所不定伊藤昇太郎（四〇）で窃盜前科三犯の强か者と判明したので內郷湯本小名濱方面の空巢泥犯人ではないかと目下取調べ中である

六錢高値

神谷の共同米

石城郡神谷村農會產米共同販賣は十一日午前十時より同會農業倉庫にて五等三十五俵、等外三十三俵、合計七十八俵を入札に付した結果五等一俵八圓廿八錢、等外八圓八錢を以つて全部平町久保林之助氏に落札されたが建値は本月五日の平農業倉庫入札より六錢の高値であつたと

荷馬 ドコ行つた？ 肥料をつけて

靑くなつた順平さん

石城郡高久村字山田農阿部順平（三七）は十日午後三時頃大町附近で買物中電柱に荷馬をつないで置いた處荷馬は八圓餘の肥料や其他を擔つた儘姿を消したので驚いて平署に届出た

赤堀氏の小品供覽

既報昭和產業博に等身大の裸像「天地」を出陳した彫刻家赤堀信平氏は昨日歸郷十四日頃迄古鍛冶町國府田直良氏方に滯在持參せる小品數点を希望者に供覽する由

平町糞尿汲取

平町役場では役場外町立四學校の糞尿汲取りを十六日午前十時より會議室にて入札に附せる事となつたので本日關係各方面に照會を發した

兒童の讀物 家庭に注意

平第一小學校にては現在五年生以上の爲めに文庫を設置し讀物を選擇指導しつゝあるが生徒の中には家庭に在つていかがはしき讀物に耽ける者もあり教養上憂慮すべき點が多いから一般父兄の注意を望むと

裁判所便り

△石城郡小名濱町字下町七十七番地磐城海岸軌道株式會社の從業員鈴木孝（二九）は無免許にてトラックを運轉し鮮魚を運搬したる爲め自動車取締法違反として罰金三十圓

△双葉郡上岡村大字本岡字本町二十三番地大和田新三郎方自動車運轉手藤田保勝（二八）は乘客五名を踏臺に乘車せしめたる爲め自動車取締法施行規則違反として科料十五圓に各々平區裁判所に於て本日略式命令を以て處分せらる

明日のラヂオ 十三日

仙台放送局

今晚の部

▼後六、〇〇 子供の時間「恐るべき交通事故」清水源太郎
▼後七、三〇 放送舞臺劇 東京明治座より中繼 河合武雄喜多村綠郎外
▼後九、〇〇 俚謠 北海道帶廣町の人々
▼後九、三一 奉天より

明日の部

▼後九、四〇 全國ニュース氣象通報 番組豫告
▼前九、一〇 料理献立「チキンレバーカレーライス」朝倉長吉
▼前一〇、三〇 家庭講座 家計簿記」（九）大原信德
▼後〇、〇五 浪花節「實說かゞみ山」山本松子

天氣豫報

今晚も明り 南東の風晴れたり曇つたり

▼後二、〇〇 家庭大學講座「日本人は生れながらにして歌の國民」文學博士 武島又次郎
▼後四、三五 副業講座「春季の養鷄」（一）地湧喜嶺
▼後六、〇〇 子供の時間 お話「コンクリート」大石義郎
▼後七、三〇 講演「國民教育の完成に對する我等の奉仕」伯爵二荒芳德
▼後八、〇〇 室內樂「動物の謝肉祭」日響アンサンブル
▼後八、三〇 掛合義太夫「新版歌祭文」豊竹國司外
▼後九、三一 奉天より

平町人事

回出生

△紺屋町二九白岩信治氏四男勝男
△鎌田五二當時東白川郡竹貫村字竹貫高橋寅治氏三女ミヱ子

回死亡

△鎌田一二金成直藏（七六）
△堤ノ內山本カツ（十九）
△仲間町五〇 町村フサ（一七）

故父興源院葬送の際は御鄭重なる御香奠を賜り剩へ御多忙中にも不拘遠路の處御會葬被成下御厚志の程誠難有奉深謝候乍略儀紙上を以て御禮申上候

昭和七年四月十二日
平町字鎌田町
男 金成忠義

親戚總代 松本代藏
箱崎爲次郎
金成保吉
諸橋國松
猪狩惣平
西山米造
柏原喜次郎
岡田幸千藏

友人總代

藤原劍生

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第廿五席〕　神影流の達人秋山要介

日本一の株取に、秋山要介は居室に通ると杉山五郎兵衛が

五『お歸り遊ばせ』

要『オ、、杉山毎日も〳〵も貴公にのみ門人の稽古を賴み誠に氣の毒だ今日はな井伊家の門前にて水戸の家來に出會つた俺が井伊家に出入をいたす處を見定める爲にはり込んで居つた者に相違ない、そこで二人を敷寄屋橋の見附けまで引出し何で貴樣達は俺の後を尾けて參つたかと問ふと秋山先生を見てお願ひ申すことがあるとの事だ偖は命を貰ふとでも申すかと思つたがさうでは無い先生の弟子になつて神影流を修行したいと申したよ』

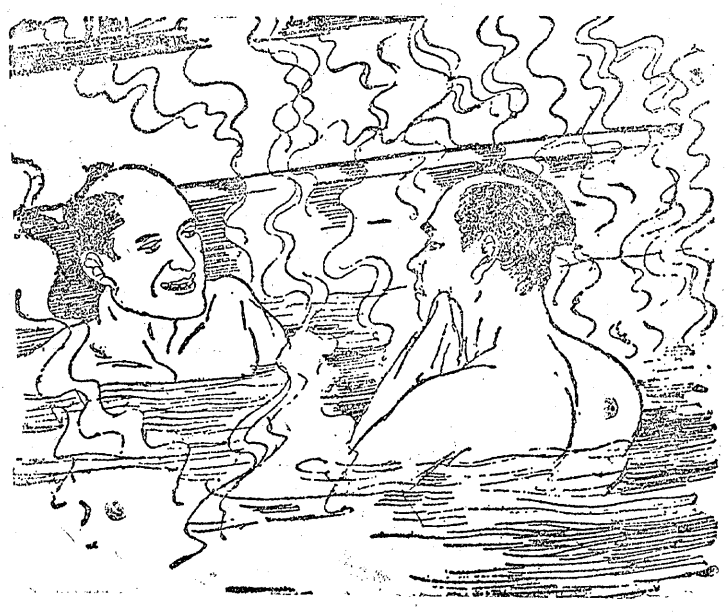
五『ヘエ、――遁辭を構へましたナ先生に見附られた故そんなことを申して逃げる心算でございませう』

要『俺もそれと察せしゆえ兎も角も一緒に參れと久保町の賣茶に伴れ込み藝妓を招んで騷ぎそれから初音屋の駕で戻つて來た、但し其入用は奴等二人に出させたが定めし驚き居つたであらう』

五『それは先生大出來でございました』

要『さア〳〵あの土產の料理で一獻遣つてくれ』

と五郎兵衛に馳走した果して二人は稽古にも來ないそれから一月あまり經つての事であるが



要『杉山二三ヶ月不在いたす賴むぞ』

五『何方へお出でになります』

要『秩父の小川まで參るイヤ風流の旅では無い小川甲一刀流の使ふ人で逸見多源四郎と申す者が居るそれと一本立合つて見度い』

五『ヘエ、豫て逸見先生の名人たるは存じて居りますそれは今から五年程前でございますが、三ツ峰山に參詣いたした其時小川に參つて教を受けましてございます』

要『ウーン教を受けたと云ふ程では多四郎は出來るナどうだ俺と逸見とは何方が偉からう、貴公は彼とも手合せをいたし又俺の腕を知つてゐるさすればその優劣も判り居るであらう』

五『それはあなたも名人でございます逸見も達人この試合は興味がございますナ』

要『イヤサ何方が勝利か遠慮なく申せ』

五『先づ先生が勝つことゝ存じます』

要『もう一度云へ、今云つた事は能く聞き取れなかつた』

五『先づ先生が勝つでございませう』

要『先づだけ餘計だ先づ勝つと云ふやうでは俺を怪しいものだと思ひ居るな』

五『イエさういふ意志で申した譯ではございません逸見先生は家系も正しくそれに品行も方正技も出來て居りますれば智惠もございます』

要『いやな事を云ふナ逸見は家系も正しい身持もよく技も出來て居て智惠がある この秋山は家系も正しからず品位もよろしくなく技も劣る馬鹿だといふか』

五『そんな事は申しません然し先生御油斷なさいますな逸見は技にかけては曲者でございます』

要『曲者で結構平凡な奴では相手にならぬ早速これから出懸て行く』

五『お出でになるのは宜しうございますが如何なる處から逸見先生と試合をいたしたいと思はれましたナ』

要『ウン昨日錢湯に參ると坂下の米屋に會つたあれの家號は秩父屋と申して小川から出て來た者ださうだそれで逸見の事を話に日本一の名人だぞと申し居る一體名人は澤山あるものではないさすれば第一の名人第二の名人と等級は付いて居るまい、逸見を打込んで日本一の名人の株を取るつもりだ』

五『ハアそれでお出でになりますかお供をいたしませう』

要『イヤ貴公を伴れて行つては代稽古をする者がありまい賴むぞ』

五『お早くお歸り遊ばせ』

要『一月ばかりの間には戻るつもりであるが若し戻らなんだらこの道場を貴公が引受けて門人を執立てくれこの道場はそつくり讓るそれに門人を附けて置く』

これを聞いて弟子が先生は吾々を雜作だと思つてゐるかと顏を見合した、秋山要介は杉山五郎兵衛に後を任して江戸をたち中一晩泊りで科父の小川に入つて來た

大塚の
學生靴!!!
耐久新製品
編上靴　六・〇〇
半靴　五・〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……
大塚支店製靴部
電話七七番

一册の代金で
御希望通りな
五册の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
（次第規則書進呈）

醫學博士廿名推奬
胃腸病　婦人病　其他の慢性諸症
肥り度い人の福音　熱くなく痕つかず無煙式　誰にも出來る理想的家庭治療器
ムウチラ溫灸器
專賣特許
特約代販賣部　卸治療部
定價表
金拾參圓　藥及特効モグ五週間分付上製桐箱入一揃
金拾圓　藥及特効モグ五週間分付上製桐箱入一揃（說明書呈）
福島縣平町五ノ廿八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
產婆　關口悅子

耳鼻咽喉科專門
氣管食道科
平南町（電話一七〇番）
大和田醫院

外科
花柳病　專門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關內藥局
電話四〇番